

肝機能に関する血液検査

肝臓はからだの中で一番大きく、日々血液の解毒、栄養分の貯蔵などを行っています。肝臓は、少々のことにはへこたれない回復力の高い臓器ですが、肝臓の機能が一定以上障害されると、肝臓の細胞が壊れて細胞の中にある酵素が血液中に流れ出します。したがって採血の結果、検査値に異常が見られた場合には、肝臓がからだを支えきれなくなっている状態であるかもしれないということが推測されます。

たとえば、アルコールを多く摂りすぎると、ALT（GPT）や γ -GTという酵素の検査値が高くなります。肝臓の障害にはいくつかの原因がありますので、ひとつの検査だけではなく、肝臓に関連する検査項目をパズルのように組み合わせで判断されます。このパズルを解き明かすことにより、肝臓あるいは肝臓周囲のどこがどの程度障害をうけているのかが分かってきます。



肝臓は「沈黙の臓器」で痛みなどの自覚症状はほとんど無いと言われており、なかなかSOSを出しません。そのため、自分は健康だと思っても、健康診断など定期的に検査を受けてご自身の基準値を知っておくことをお勧めします。また、検査値が前回よりも高値になっている場合には、この検査を機会に日頃不摂生をしていないかどうか、ご自分の生活を振り返ってみましょう。